「いずれ発明家に戻りたいですね」

フロントランナー
Front Runner

（１面から続く）

福井　泰代さん　ナビット社長

――地下鉄などの「のりかえ便利マップ」。つくった当初は苦戦したようですね。

鉄道会社に売り込みに行くと「こういうマップがあると、特定の車両が混雑してしまう」と断られ続けました。関係部署をたらい回しにされるのも当たり前でした。

――めげなかった？

週末ごと、夫に子ども2人を預けて、朝9時から夜10時まで、駅を全部歩いて調べたので、とても大変だったのです。途中であきらめたらその努力がゼロになるでしょう。たらい回しくらいは通過儀礼だと思ってがんばりました。営団地下鉄（現東京メトロ）に2年後に採用されて、その後は全国に広がっていきました。

足で稼いだ情報

――そうなると自分では調べきれない。どんな方法を使いましたか。

各地の大学にある鉄道研究会に目をつけました。協力を依頼すると、一生懸命調べてくれました。

全国調査できるということで、その後、各地の「デパ地下」情報を集めてほしいという仕事が入りました。再び彼らに頼むと、今度はぜんぜんダメ。鉄道好きの学生は、興味がなかったのです。その時です。主婦のネットワークをつくることを思いついたのは。

――ナビット社の在宅ワークサイト「Ｓｏｈｏｓ－ＳｔｙＬｅ」の始まりですね。

乳飲み子を抱えていると、できる仕事は限られる。大勢が応募してくれました。その人たちに仕事が回るようにしなければと思って「子どもたちのミルク代になるんです」と必死にいろんな会社にアピールして回り、徐々に取引先が増えました。近くのスーパーのチラシの特売情報を入力したり、近所にできた分譲マンションの写真を撮ったりする仕事もあります。

――こうして集まった主婦が全国に約５万８千人いるのですね。

私たちは地域特派員と言っています。家の近くの公園に出向いて桜の開花状況を見たり、全国すべての市区町の役所に張り付き、どんな助成金があるか調べたり。地域特派員が足で稼いだ情報、データが私たちの商品になります。

機密情報の取り扱い方などの検定を受けたり、仕事を重ねてスキルが上がったりすると、仕事の単価が上がるようにしました。逆に締め切りを守らなければ下がります。がんばった人が適正に評価されるように努めています。多い人で月20万円を稼ぎますが、まずは月3万円が目標。「仕事を始めたら夫が優しくなった」と言う人もいます。

寝られない日も

――社長と家事・子育て。両立は大変ではなかったですか？

母が旅館の女将だったので、女性が男性より働くのは当たり前に見て育ちました。私も一度は主婦をやったけれど、時間をもてあまして、自分の力で仕事をしたかった。夫に「道楽だ」と言われたときもありましたが、子育てに協力してくれたし、いまは夫もよかったと思っているはずですよ。お小遣いも増えたでしょうからね。

――会社にとって、主婦はどんな存在ですか。

宝です。たまたま子育てで家にいるけれど、優秀な人はたくさんいます。いま盛んに、駅などにある案内板の多言語化が進んでいます。そこにも語学に堪能な主婦の力が発揮されているんですよ。才能を埋もれさせることなく生かすことは、社会にとっても大きな宝になるはずです。

――多くの人が福井さんの会社の情報の恩恵にあずかっています。

私、本当は気が小さいので、毎日気が気じゃないんですよ。情報に間違いがあれば、多くの方に迷惑がかかってしまいます。のりかえ便利マップを見かけるたび、間違いチェックをしています。寝られない日もあるし、夜中にパッと起きてしまうこともあります。情報を正確に提供する努力は欠かしていません。

――重圧から逃れたいと思ったことはない？

たくさんの人を雇っているから、引くに引けずに続けてきました。大変なことばかりですが、世に出た時の喜びはとても大きいし、達成感もありますからね。

――今後の目標は？

優秀な人材もそろってきたので、会社はそういう人たちにまかせ、いずれ発明家に戻りたいですね。私、嫌なことがあったら必ずメモを取るんですよ。

――嫌なこと、ですか。

そう。人が嫌がることをどうすれば解決できるか。それを考え、つくり、世に問う。それが発明家の基本です。のりかえ便利マップも、嫌だと感じたことから始まった。

考えて、考えて、考え続ける。その先に、たくさんの人に使ってもらえて、世の中に役立つ発明品があるのです。だから私はずっと、嫌なことをメモし続け、考え続けるのでしょうね。

ミーティング中の福井泰代さん（右）。社員たちから「こわかわいい」と言われている＝東京都千代田区のナビット本社

プロフィル

★1965年、神奈川・箱根強羅温泉の宿「桐谷箱根荘」の長女として生まれる。
★成城大卒業後の88年、キヤノン販売に入社。トップ級の営業成績を残すが、同業の夫と結婚し、91年に退職。専業主婦に。
★26歳で長女、29歳で長男が生まれる。子育てのかたわら、発明学会に入会し、発明に目覚める。趣味は旅行。家族で海外にもよく出かけた＝写真。

★95年、五つ目の発明として「のりかえ便利マップ」の原型をつくる。
★97年、都内の自宅２階で、有限会社アイデアママを設立。その後、便利マップが営団地下鉄などに採用される。
★01年、株式会社ナビットを設立。その後、在宅ワークのサイトを立ち上げる。
★600万円で始めた会社の資本金はいま２億900万円。社員は約60人。

◆次回は日本最大規模の在宅医療クリニックグループを経営する医師、佐々木淳さん。専門職の育成にも力を入れ、超高齢社会に対応する地域モデルを示しています。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。